

AI Agent時代のビジネスインフラ

クリックから、ビジネスを解放する。

人の目的から、AIが動き、企業やサービスとつながる。新しいビジネスの当たり前を、共に。

Beyond Zero Click.

クリックから、ビジネスを解放する。



これまで人は、
探す・比べる・クリックする・入力する・予約・注文する
という操作を自分で行ってきました。

AI Agentの時代には、
人が目的を伝え、
AIが企業やサービスとやり取りし、
目的の達成まで進める
世界へ変わっていきます。

ABISとは

AIと企業の間で行われる
「やり取り」と「結果」を、
企業やシステムの違いを越えて
共通に扱うための仕組みです。

Business Interaction / Business Outcome

人の目的が、スムーズに社会の力とつながる世界へ。
ABISは、よりよいビジネスのこれからを支えています。

Public v0.1

2026.09.16

公開・意見募集版

Concept & Architecture Release

Public / Non-Normative / Open for Review

「処理できた」と 「目的を達成した」は違う。

Technical Success ≠ Business Success



人からAIへの依頼

「明日 19時、4名、個室、禁煙で予約して」



AIが予約システムへ依頼

システム上は成功



予約完了



4名

人数



19:00

時間



禁煙

席の条件

S U C C E S S

≠

人が求めた結果

個室ではなく「テーブル席」だった。



個室ではなかった



4名

人数



19:00

時間



禁煙

席の条件

システムは正常に動いた。
でも、
人の希望は叶っていない。

ABISが見るのは、
「処理が完了したか」
だけではありません。

その結果、
「人が求めていた目的を達成できたか」
まで扱います。

人の「やりたいこと」から、 実際の「結果」まで。

01

**人の目的**

「出張を成立させたい」

Human Intent

02



ChatGPT



Claude



Gemini

その他の
AI**AIが動く**必要な企業やサービスを探し、
やり取りする

AI Agent

03

**企業とのやり取り**予約する・注文する・申請する
変更する・取り消す

Business Interaction

04

**結果**

「やりたかったことは実現したか？」

Business Outcome

ABIS

この流れの中で発生する、

企業との「やり取り」とその「結果」を共通に扱えるようにするのがABISです。

AIや企業、利用するシステムが違ってても、
「何を依頼し、どんな結果になったのか」
を共通に理解できる世界へ。

ひとつの目的には、 いくつもの企業が関わる。

One Purpose → Multiple Business Interactions



これまでは、
人がそれぞれのWebサイトやアプリを開き、
ひとつずつ手続きをしていました。

AI Agentの時代には、
ひとつの目的から、

複数の企業

複数のサービス

複数のシステム

とのやり取りが発生します。

あなたの会社も、 この「やり取り」のひとつになるかもしれません。

Your Business Could Be One of These Interactions.

ABISは、 今あるAIの仕組みを 置き換えるものではありません。

Protocol Neutral

AI Agentの世界では、
すでにさまざまな技術や仕組みが使われています。
たとえば、

- AIとツールをつなぐ
- AI同士をつなぐ
- 商品を探し、購入につなげる
- 予約・決済・業務システムを動かす

といった役割です。



ABISが考えるのは、 その先です。

企業とどんなやり取りをしたのか。
そして、
その結果、

人の目的は達成されたのか。

既存の技術と競争するのではなく、
AI・企業・システムの違いを越えて、
ビジネス上の

「やり取り」と「結果」

を共通に扱うことを目指します。

ABISは、公開して終わりではありません。 企業・団体と一緒に、 実際の環境で検証します。

ABIS Public v0.1

2026年9月16日 公開

今回公開するのは、

- ABISの考え方
- 対象とする範囲
- 基本的な構造
- 用語
- 利用イメージ
- 今後の進め方

Concept & Architecture Release
Public / Non-Normative / Open for Review

今後の進め方（ロードマップ）

- 1 考え方を公開
- 2 企業・業界で検証
- 3 複数企業で実証
- 4 企業やシステムを越えて使えるか検証
- 5 仕様を改善
- 6 実際に使われる共通の仕組みへ
De Facto Adoption

FUTURE VISION

その先には、海外での検証や将来的な国際標準化も視野に入れています。
Global Validation → International Standardization

一緒に検証する企業・団体を募集します。

対象例

- AIサービスを開発・提供する企業
- 予約・EC・旅行・交通・決済などのサービス企業
- 業務システム・SaaSを提供する企業
- システム開発・導入を支援する企業
- 一般企業・自治体
- 大学・研究機関・技術コミュニティ

一緒に行いたいこと

- 実際の利用ケースで試す
Use Case Validation
- 複数企業をまたいで動くか試す
Multi-company PoC
- 仕様について意見をもらう
Interoperability Testing
- 業界ごとの課題を確認する
Specification Review
- 技術的なフィードバックをもらう
Technical Feedback

ABISは、CoaRetailだけで完成させるものではありません。
AIとBusinessを実際につなぐ企業・団体とともに、
検証し、改善し、育てていく公開フレームワークです。

ABIS Official Website
abis.coaretail.com

公開仕様 / GitHub
github.com/abis-standard/abis

共同検証・お問い合わせ
abis.coaretail.com/ja#contact